

県医師会の動き

副会長 吉本 正博

北朝鮮からの弾道ミサイル落下を想定した避難訓練が、6月4日(日)に阿武町で行われたとの報道がありました。3月17日(金)の秋田県男鹿市に次いで2か所目ということです。同じ日に福岡県大野城市で行われた避難訓練の様子をテレビのニュースで見ましたが、どこに避難して良いのかわからずにグラウンドで右往左往している人が結構いました。北朝鮮の金正恩やトランプ米国大統領の今までの言動を見ていると、ミサイル落下も全くの杞憂とは言い切れないのが、何ともやりきれないところです。

5月13日(土)にホテルグランヴィア岡山で中国四国医師会連合医療保険分科会が開催され、河村康明 会長、萬 忠雄 常任理事、清水 暢 理事が出席しました。来年4月の診療報酬改定に対する10項目の要望がまとめられ、中国四国ブロックの意見・要望として日医の診療報酬検討委員会に提出されることになりました。

5月16日(火)に平成29年度第1回都道府県医師会長協議会が開催されました。今回は従来の会長協議会とは異なり、「新専門医制度」と「第7次医療計画」の2議題についての現状報告の後、各都道府県からの質問に答えるという形式で行われたようです。詳細については『日医ニュース』No.1338をご覧ください。

郡市医師会成人・高齢者保健担当理事協議会を5月18日(木)に開催しました。胃がん検診に内視鏡による検診が追加されたことに伴い、来年1月14日に研修会を開催する方向で検討が行われていること、がん登録をオンラインシステムを利用して届出することとなり、その説明のための

研修会が7月30日(日)に開催されるとの説明が県から行われています。

5月20日(土)にホテルグランヴィア岡山で全協中国・四国支部総会並びに委託研修会が岡山県医師国民健康保険組合の担当で開催されました。研修会では、厚労省保険局国民健康保険課の立石孝志 課長補佐による「国民健康保険組合を巡る現状と課題」、大原美術館の大原謙一郎 名誉理事による「文化の力と美術館」の2つの講演がありました。山口県医師国保組合は今、多くの課題を抱えています。国保組合に対する国庫補助は平成28年度から5年間かけて段階的に32%から13%に引き下げられることが決まっており、28年度は28.2%、今年度は24.4%となります。特定健診の受診率を70%以上、特定保健指導の実施率を30%以上にすることが目標とされ、保険者機能の責任を明確にすることから、全保険者の実施率を29年度実施分から公表することが決まっています。今後さらに保険者機能の強化を図ることが求められ、保険者に対する予防・健康づくり等に対する取組みが、国保組合に対する特別調整補助金に反映される仕組み作りが行われるようです。また、マイナンバー制度に伴う情報提供ネットワークにおける中間サーバーの経費も、本年7月から保険者が負担する予定であり、本年度6月中旬までに総合運用テストを実施し、その進捗状況・完了日を登録しなければなりません。情報提供ネットワークシステムの運用開始は平成29年7月18日が想定されています。

5月25日(木)には山口県医師連盟執行委員会と山福株式会社第41回定時株主総会が開催されました。医師連盟執行委員会冒頭の挨拶で、

河村康明 委員長は「来年 4 月に診療報酬・介護報酬同時改定があるが、従来は中医協で決定されていたが、最近では政府の意向がかなり反映されるようになった。そういう意味では政治活動がさらに重要になってきている。ある会員の先生は『もう一度圧力団体と呼ばれてみたい』と話しておられた。」と述べておられましたが、思わず頷きそうになりました。

5 月 28 日（日）に日本医師会館で**日医かかりつけ医機能研修制度 平成 29 年度応用研修会**が開催され、山口県でもテレビ会議システムで開催しました。研修会には全国で約 7,000 名、山口県では 74 名の参加がありました。

6 月 4 日（日）に**平成 29 年度第 1 回山口県糖尿病療養指導士講習会**を開催しました。172 名の申込者のうち 152 名が受講しています。さらに 6 月 25 日、7 月 9 日、7 月 23 日と計 4 回の講習会を受講し、試験に合格した人にやまぐち糖尿病療養指導士の資格が与えられます。

6 月 7 日（水）に**日医の社会保険診療報酬検討委員会並びに小委員会**が開催され、中国四国ブロック選出の委員として萬 常任理事が出席しました。来年 4 月に予定されている診療報酬改定に対する要望項目として、各ブロックから合計 172 の要望項目が提出され、小委員会以最重点要望事項が選定されたとのことです。

郡市医師会看護学院（校）担当理事・教務主任合同協議会を 6 月 1 日（木）に開催しました。昨年同様、看護学院（校）を経営していない郡市医師会からも役員を派遣していただきました。協議会では、県医師会の会員が所属している医療機関及び老健施設や訪問看護ステーション等、県内医療機関 1,204 件を対象に実施した「看護職員の需給状況に関するアンケート調査」の結果が報告されました。診療所では看護師はほぼ充足されているようですが、准看護師の高齢化と欠員した場合に補充できないことに困っているとの回答が多く寄せられていました。准看護師養成所の入学

定員は最近 20 年間で 3 万人から 1 万人に減少しています。今、医師会立看護学院（校）の経営は極めて厳しい状況にあります。もし定員割れ、廃校になるようなことがあれば、高齢の准看護師が退職した後の補充は今以上に困難となります。県医師会では医師会立看護学院（校）の応募者を増やすために、看護職のすばらしさや医師会立看護学院（校）のメリット等について広報するポスターを作成する予定にしています。

6 月 11 日（日）には山口市民会館で**第 100 回山口県医学会総会**が開催されました。今回は 100 回目の記念総会ということで、山口県医師会の企画により開催しました。午前中に三浦房紀 山口大学副学長（山口大学応用衛星リモートセンシング研究センター長）による「大規模災害から命を救いたい～衛星リモートセンシングの可能性～」と、岩田 誠 東京女子医科大学名誉教授（メディカルクリニック柿の木坂院長）による「デメンチア患者の診療」の 2 題の特別講演、午後は、防府西高等学校吹奏楽部による素晴らしいオープニングセレモニー演奏の後、天野 篤 順天堂大学医学部附属順天堂医院院長（心臓血管外科教授）による県民公開講座「この時代の医師としての役割」が行われました。参加者は 1,500 人を超え、立ち見客が出るほどの盛況ぶりです。第 100 回の記念総会にふさわしい講演であったと思います。また、午前中には今回初めての試みで、中学生と高校生を対象とした「医師の職業体験コーナー」を設けました。事前の募集に定員を超える多数の応募があり、やむをえず参加をお断りした方もおられます。小野田赤十字病院の清水良一 院長、山口大学医学教育学講座の先生、済生会山口総合病院の研修医、本会の白澤文吾 理事と清水理事に対応していただき、4 つのコーナー（血圧測定、静脈採血、縫合・結紮、心肺蘇生）を順に体験してもらいました。途中、天野先生が見学を訪れ、34 名の参加者に激励のメッセージをいただきました。順天堂大学医学部では心臓血管外科と小児外科が、高校 2 年生と 3 年生を対象とした 4 日間の早期医療体験プログラムを 2 年前から実施しており、プログラムには手術見学等も含まれて

いるそうです。


6月8日(木)開催の第5回理事会で「糖尿病性腎症重症化予防プログラム(素案)」についての協議が行われました。山口県下では既に山口市や下関市等でこの取組みが行われていますが、今後すべての市町に拡げていく予定となっています。そのため山口県、山口県医師会、山口県糖尿病対策推進委員会(県医師会の会内委員会)が協議を行い、上記プログラムの素案を策定し、理事会で承認されました。年内にはプログラムが確定する予定で、来年度から各地区で糖尿病性腎症重症化予防の事業を実施する際には、このプログラムを活用して、地域医師会が市町と協議を行い、かかりつけ医、専門医等との連携を図りながら行っていただけたらと思います。

第180回山口県医師会定例代議員会が6月15日(木)に開催されました。会長挨拶、県知事挨拶、平成29年度第1回都道府県医師会長協議会の報告の後、「平成28年度山口県医師会事業報告」について報告し、続いて平成28年度山口県医師会決算、平成30年度山口県医師会会費賦課徴収、入会金、役員等の報酬について議決が行われました。今回は下関市医師会の赤司和彦 代議員と岩国市医師会の小林元壯 代議員から2題の質問が提出されました。詳細は本会報8月号をご覧ください。

代議員会の後、山口県医師会表彰式がありました。「医学医術に対する研究による功労者表彰」として、宇部市医師会の金子法子 先生と岩国市

医師会の玉田隆一郎 先生が表彰されました。他に「医事・衛生に関しての地域社会に対する功労者表彰」で2名、「長寿会員表彰」で23名、「役員・代議員・予備代議員・郡市医師会長通算10年以上の表彰」で2名の先生方が表彰されました。誠におめでとうございます。

いつかショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲を取り上げたいと思っていました。ショスタコーヴィチといえば交響曲(全部で15曲)が一般的には有名ですが、弦楽四重奏曲も第15番まであり、内容的にもとても充実しています。その中でも特に評価が高いのが第8番ハ短調 作品110です。この曲は1960年にわずか3日間で作曲されていますが、当時の最高権力者フルシチョフに名誉あるポストを与えるかわりに共産党に入党するよう何度も圧力をかけられ、入党を余儀なくされた年にあたります。作曲者によって「ファシズムと戦争の犠牲者の思い出に」捧げるとされていますが、ショスタコーヴィチ自身のイニシャルが「D-S(ES)-C-H」音型で織り込まれ、自身の書いた曲の引用が多用されていることから、「自分自身の思い出に捧げる」作品であることを暗示していると言われています。この弦楽四重奏曲は5つの楽章を休むことなく演奏する約20分の作品です。全体に非常に重苦しい音楽です。生涯政治権力から圧力をかけられ続けたショスタコーヴィチの苦しい胸の内をはき出しているようです。友人にあてた手紙の中で、「この曲を書きながら、半ダースのビールを飲んだ後の小便と同じほどの涙を流しました。」と書いています。




**医業継承・医療連携
医師転職支援システム**

〈登録無料・秘密厳守〉

後継体制は万全ですか？

DtoDは後継者でお悩みの
開業医を支援するシステムです。
まずご相談ください。



お問い合わせ先

0120-337-613

受付時間 9:00~18:00(平日)

よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社

www.sogo-medical.co.jp 東証一部(4775)

山口支店 / 山口市小郡高砂町1番8号 MY小郡ビル6階
TEL(083)974-0341 FAX(083)974-0342
本社 / 福岡市中央区天神
■国土交通大臣免許(2)第6343号 ■厚生労働大臣許可番号40-コ-010064